『発達障害の子どもに伝えることば』

川崎聡大 SB新書 2024.10.

本書は、発達障害がない子にとっても大事なコミュニケーション方法を教えてくれていると思います。子供につたわる言葉、考える良いきっかけになりました。

◆コミュニケーションは**相互交渉**。うまくいかない状況があれば、伝える側、受け取る側、場面すべてに改善の余地がある

◆発達障害の人と**上手に生きていく**ために必要なこと

自分の常識は必ずしも相手にとって**常識**とならないこと

ときに**非常識**であることを意識しておくこと

◆**文法の気づき**の3段階（小学校入学まで）

第一段階（2～4歳前半） 「ことばを連ねる」ことの気づき

第二段階（4歳後半～6歳） 「ことばの順番に意味がある」ことの気づき

第三段階（6歳～） 「助詞が重要である」ことの気づき

◆**口で言えば分かる**と言うが、「わかる」レベルも人それぞれ。円滑なコミュニケーションや安心した生活を送るには、ただ「わかる」だけではダメ。いかに本人にとって、負担が少なく理解できるかが大事。「できる・できない」の間には「頑張らないとできない」「めちゃくちゃ頑張ってもようやくできる」といった様々な段階がある。